

学校教育目標	<p>確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成 ～主体性の育成～</p>	昨年度の評価概要	<p>〈令和6年学校評価 概要〉 ・学校の取組は小中連携して様々な角度から子どもたちにアプローチし、子どもの豊かな育成に寄与できている。 ・小中教職員が協働して授業研究や授業交流に取り組み、子ども達も意欲的に学習している。また、学校地域協働活動推進員さんのコーディネートにより、たくさんの地域の大人や保護者の姿が学校にある日常が増えた。周りの大人や先生、身近な先輩からの励ましや自分が大切にされているという感覚が周囲への信頼や安心につながっている。 ・人口減少、少子高齢化、地域におけるつながりの希薄化が課題の現代社会において、これは素晴らしい取組であると評価できると考えられるので、これからも推進してもらいたい。 ・安定した学校環境の中で、子ども達が生き生きと学び、成長している姿が見られる。教職員の意欲も高く、向上しようとして取り組んでいることが感じられる。</p>	中期的目標	<p>＜ 中期的【3年間】目標(1年目) ＞ ・「学ぶ力」を高めるため、義務教育9年間の系統的・継続的な指導を意識し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業改善に取り組む。 ・一人一人の特性や課題に応じた指導の充実を図り、協働的な学びの集団作りを進める。 ・体験的な活動を重視し、多くの人とのふれあいを通じて豊かな情操や社会性、郷土愛を育む取組を進める。 ・児童理解に努め、適切な生徒指導・支援を行いながら自己有用感を醸成し、自己指導力を育む。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深め、地域とともにある学校づくり、信頼される学校づくりを進める。</p>
--------	---	----------	---	-------	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
<p>【確かな学力の力点】</p> <p>●子どもを真ん中においた個別最適な学びと、協働的な学びになる授業改善</p> <p>●読書活動の活性化</p> <p>●特別支援教育の充実</p> <p>●自主学習の習慣を確立</p>	<p>・中学校と共同研究に取り組み児童の系統的・継続的な指導を踏まえながら授業改善に取り組む。 【学園研究やOJTを通じた授業改善100%】</p>	<p>「主体的に学ぼうとする児童生徒の育成」を研究主題にして、小中合同の研究に取り組んだ。「学び合い」をテーマに、抽出学級の指導の様子をもとに研究協議を行い、各学級での指導改善に生かした。講師より「学び合い」の効果的な学習方法について学ぶ機会も設けた。</p>	A	<p>○「学び合い」に関する研修が深まっており、授業の中で協働的な場面を取り入れる学年も見られる。今後も、学園のニーズに応じたテーマで研究に取り組んでいきたい。 ○読書活動に関する県教委訪問では、読み聞かせで児童が同じ本を見て楽しむ、笑うことが大切で、それが学び合い活動につながる旨、指導いただいた。引き続きボランティアの皆さんの協力を得ながら、児童が図書に親しめる機会を充実させていく。 ○生徒指導や教育相談に関する現状を踏まえ、課題対応や支援、指導の在り方について、研修や実践を行いたい。</p>	<p>・子ども達は、規律ある落ち着いた教育環境の中で意欲的に学習に取り組む言葉遣いも丁寧である。 ・児童が本に親しんでいることは、読み聞かせやお話会の継続が影響している。授業の中にも本を生かした具体的な取り組みを行い、その様子を授業参観で公開すれば、保護者の意識も高まるのではないかと。 ・家庭で子どもの学習や読書へどうアプローチしていくとよいのか難しい。お便りで周知意識向上を図っていくとよいのではないかと。</p>
	<p>・朝読書の充実や、読書環境の整備を進め、読書に親しむ児童を増やす。【楽しく読書に親しむ(児)70%】</p>	<p>読書ボランティアによる読み聞かせやお話会の実施、図書室やお話ルームの環境作りなど、児童が図書に親しむ機会が充実している。県教育委員会学校訪問での指導を取組に生かした。【児童78.7%/保護者25.0%】</p>	A		
	<p>・児童理解を深め、適切な生徒指導・支援を行うための指導力向上に取り組む。【研修会実施】</p>	<p>児童の課題やニーズに応じて、学習活動の見取りや評価の在り方について検討し、児童の学びへの意欲向上に向けた取組を進めた。学校内で安心して過ごせる「はなまる教室」を開設した。</p>	A		
	<p>・家庭学習や読書の充実を図るため、家庭との連携を進める。【家庭学習や読書への働きかけ(保)70%】</p>	<p>家庭学習の手引きや学年、個々の状況に応じた課題の工夫を行っている。また、全国学力テストの結果考察や家庭での読書習慣育成についておたよりで呼びかけた。 【家庭学習への働きかけ保護者37.5%/読書への働きかけ保護者33.3%】</p>	B		
<p>【豊かな心の育成の力点】</p> <p>●自分事として生き方を見つめる道徳教育の推進</p> <p>●望ましい人間関係を土台にした生徒指導の推進</p> <p>●主体性を引き出す児童活動の推進</p>	<p>・他の教育活動と連携した道徳カリキュラムを着実に進め、日常に立ち返る道徳教育を進める。</p>	<p>年間計画に基づいて、道徳科の授業を実施している。各学年の実態に応じて、話し合いの場や役割演技の活動を取り入れるなどの工夫を行った。【道徳の授業を生活に活かす 児童93.4%】</p>	A	<p>○道徳教育はすべての教育活動を通して行いながら児童の道徳性を育てていくことを共通理解し、共通実践していく。 ○児童の学びが深く、豊かに、そして児童の社会性や豊かな情操が培われるよう、地域学校協働活動推進員さんや参加いただいている皆さんの意見も踏まえながら、持続可能な内容になるよう努めていく。 ○現在実施しているステージ活動や交流活動について、成果や課題を踏まえ、工夫、改善をしながら、小中一貫教育コーディネーターを中心に子どもも教職員も、より意欲的に取り組める持続可能で有意義な活動を模索していきたい。</p>	<p>・道徳の授業を生活に活かすという意識が児童に定着したことは素晴らしい。心の安定が学びあいの場にも活かされているのではないかと。 ・自然や人との関わりを大切に多様な体験学習の取り組みに成果を感じる。校区内の施設や商店で児童のお礼や感想を目にすることが増えた。仕事に誇りをもって語る大人の姿から子ども達は多くを学び、地域とのつながりの布石となるだろう。</p>
	<p>・文化芸術や自然体験、栽培活動、多様な人とのふれあいを通して、豊かな情操や社会性、郷土愛を養う。 【体験が自分の成長につながった(児)80%】</p>	<p>学校地域連携カリキュラムに基づき、校区の自然や環境を生かした学習に取り組んだ。特に低学年において、地域へ出かけて地域を学ぶ学習を充実させることができた。多くの地域ボランティアの皆さんのおかげで学びを豊かにしていただくことができた。全校でバイオリン、ピアノコンサートを鑑賞することができた。 【児童96.2%】</p>	A		
	<p>・縦割りやステージ活動、中学校との交流を通じて児童の主体性やリーダー性を育成する。 【縦割り活動やステージ活動に進んで参加(児)70%】</p>	<p>第1ステージの「学習発表会」、第2ステージの「高島学園マルシェ」をはじめ、小中一貫教育WEEKの取組、加えて中学校体育祭や文化祭への小学生の参加、小学校運動会への中学生の参加、小中合同の草むしり等、コーディネーターをはじめ、教職員の柔軟な発想を生かしながら、交流および小中一貫活動に取り組んだ。【児童92.9%】</p>	A		
<p>【豊かな人間関係を結ぶ力の育成の力点】</p> <p>●相手の立場を尊重し、人権意識の高い、いじめを許さない集団づくり</p> <p>●礼儀正しい節度ある生活態度(あいさつ、時間を守る、掃除)の育成</p>	<p>・人権意識を高める指導や児童集会、行事等多様な人々との交流を通じて児童の人権意識を高め、いじめの未然防止につなげる。 【学級の友だちを大切にしたい(児)100% 自分には良いところがある(児)80%】</p>	<p>毎月の全校人権の日の取組をはじめ、全校人権集会を実施することで、児童一人一人の人権に関する意識の向上に努めた。また、高学年においては、スクールソーシャルワーカーを講師に招き、いじめのない過ごしやすい学級を作っていくための授業を行った。 【友達を大切にしたい児童98.5%/自分には良いところがある児童85.3%】</p>	A	<p>○教職員の人権に関する意識を高めるとともに、日常における指導をはじめ、人権の日、人権集会等の活動を通じて、児童の人権意識を高めていく。 ○縦割り活動やステージ活動をはじめとする行事や、学校地域連携カリキュラムによる地域の方とのふれあいを通じて、引き続き豊かな人間性や社会性、情操を育む。</p>	<p>・人と人との交流が多ければ多いほど、人権について立ち止まる機会が増え、人権意識が磨かれているように思える。 ・児童に基本的な善悪の判断能力は身につけているので、多様性の理解等、さらにレベルの高い取組ができるとうい。</p>
	<p>・真面目で誠実に学校生活を過ごす態度を育成する。 【あいさつ、時間、掃除、自分のやくわり(児)85%】</p>	<p>全体的に落ち着いた学校生活を送ることができている。各学級において、基本的な生活習慣の向上に向けた指導を行っている。【あいさつ 児童89.5%/そうじを頑張る 児童99.0%/時間を守る 児童95.2%/役割を果たす 児童97.1%】</p>	A		
	<p>・健康な心と体の育成の力点</p>	<p>多様なニーズのある児童の実態から、児童や家族の意欲を高めるための校内指導体制や具体的な取組について協議し共通理解を図った。学校生活において生徒指導の3機能である「自己決定の場を提供」「自己存在感の感受の促進」「共感的な人間関係を育成」を日頃から意識するよう、常から教職員に指導している。【学校が楽しい 児童93.9%/保護者93.1%/失敗を恐れず挑戦 児童92.4%/自分には良いところがある児童85.3%】</p>	A		
<p>【健康な心と体の育成の力点】</p> <p>●児童理解を土台にして、自己指導力の向上をめざす生徒指導の推進</p> <p>●命を大切に、健康で安全な生活実現を目指し、行動できる資質能力の育成</p> <p>●基本的な生活習慣の確立</p>	<p>・生徒指導の3機能を意識した教育活動を展開し、一人ひとりの児童に居場所がある学級づくりを進める。 【学校生活の楽しさ(児)80% (保)75% 失敗をおそれないで挑戦(児)90% 自分には良いところがある(児)80%】</p>	<p>児童理解のためのアンケートを学期毎に実施している。その結果をもとに個別面談をおこない、具体的な実態把握に努めている。不登校傾向児童や保護者にも丁寧な対応を行い、関係機関とも連携している。また、児童の学びへの意欲向上に向けた取組を進めた。学校内で安心して過ごせる「はなまる教室」を開設した。【先生は相談しやすい 児童88.1%/保護者80.5%】</p>	B	<p>○日常の観察やアンケートをもとに、児童の状況を丁寧に把握していく。また、保護者や関係機関と連携しながら、児童や家族に寄り添い、学びへの意欲を高める支援に粘り強く取り組んでいく。また、安心して過ごせる居場所づくりに継続して取り組んでいく。 ○あいさつをはじめ、時間を守る、自らの役割に責任を持つ等の基本的な生活習慣について、日頃から、丁寧に指導していく。 ○家庭における食事や睡眠、スマホやタブレットの使用状況など、児童の状況の把握に努め、生活習慣や意識向上に向けた啓発に努める。</p>	<p>・「学校が楽しい・楽しく行っている」と答えた子ども、保護者が9割を超え、心地よいルールの中でのびのびと学校生活を送っている様子が伺える。子ども達の課題、願いや希望を引き出し、学校、家庭、地域が協働で自治的な活動へと、自分達の生活を作る力も育つとよい。 ・全体的に、児童、教職員、保護者の連絡・関係づくりは丁寧に行われている。基本的な生活習慣の確立は、それぞれ家庭での生活に起因するところが大きいので、親として身につけたい意識や習慣、行動の学習機会を設けるなど、保護者の学ぶ場の充実が必要になってきている。</p>
	<p>・児童理解のための教育相談の機能を充実する。 【困っていることを先生に相談できる85%(児)】</p>	<p>児童理解のためのアンケートを学期毎に実施している。その結果をもとに個別面談をおこない、具体的な実態把握に努めている。不登校傾向児童や保護者にも丁寧な対応を行い、関係機関とも連携している。また、児童の学びへの意欲向上に向けた取組を進めた。学校内で安心して過ごせる「はなまる教室」を開設した。【先生は相談しやすい 児童88.1%/保護者80.5%】</p>	A		
	<p>・真面目で誠実に学校生活を過ごす態度を育成する。 【あいさつ、時間、掃除、自分のやくわり(児)85%】</p>	<p>全体的に落ち着いた学校生活を送ることができている。各学級において、基本的な生活習慣の向上に向けた指導を行っている。【あいさつ 児童89.5%/そうじを頑張る 児童99.0%/時間を守る 児童95.2%/役割を果たす 児童97.1%】</p>	A		
	<p>・望ましい生活習慣の定着に取り組む。 【家庭との連携、啓発】</p>	<p>各学級における指導、個別懇談会、保健だより等での保護者への啓発に努めた。サポーター会主催でスマホ講座を実施し、児童と保護者が学ぶ機会を設けることができた。</p>	A		
<p>【小中一貫教育推進の力点】</p> <p>●学園授業研究会の充実</p> <p>●小中教員の交流指導による連続した指導の充実</p> <p>【地域とともにある学校づくりの力点】</p> <p>●学校運営協議会と地域学校協働活動の連携、一体化</p> <p>●協働して地域全体で子どもの成長を支える風土の醸成</p>	<p>・中学校と共同研究に取り組み児童の系統的・継続的な指導を踏まえながら授業改善に取り組む。 【学園研究やOJTを通じた授業改善100%】</p>	<p>「主体的に学ぼうとする児童生徒の育成」を研究主題にして、小中合同の研究に取り組んだ。「学び合い」をテーマに、抽出学級の指導の様子をもとに研究協議を行い、各学級での指導改善に生かした。講師より「学び合い」の効果的な学習方法について学ぶ機会も設けた。</p>	A	<p>○小中で連携し、校内組織を有効に機能させながら、教科担任制や交流授業を効果的に実施していきたい。 ○学校運営協議会でいただく様々なご意見やご指導のもとに、小中一貫教育、地域とともにある学校づくりについて学校として自信をもって取組を進めることができている。引き続きご意見をいただきたい。 ○学校地域連携カリキュラムをもとに地域人材の協力を得ることができ、児童の学びも深く、豊かになっている。引き続き協力が得られるよう、地域学校協働活動推進員さんとも連携しながら努めていきたい。</p>	<p>・小学校から中学校へのスムーズな接続、小中一貫教育を土台とした主体的な進路選択につながっていると 思う。 ・小中一貫教育とコミュニティスクールというツールを使い、学校が楽しく、学習意欲が高まるよう、熱心に研究、指導されている。 ・学校地域連携カリキュラムにより、多くの地域の人々となつながらでき、「協働の文化」が育ってきている。</p>
	<p>・小中教員の交流授業を進め、小学校の教科担任制と中学校での複数指導の拡充を図る。</p>	<p>中学校教員による日常的な専科指導(音楽)に加え、昨年度に引き続き、小学校教員が中学校で、中学校教員が小学校で授業を行うという小中一貫教育WEEKを実施した。【教職員交流の充実 教職員72.7%】</p>	A		
	<p>・学校運営協議会と協働し、学校地域連携カリキュラムによる教育活動を推進する。</p>	<p>学校運営協議会の協力と地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、多くの地域人材の協力を得て、学習の幅を広げ、内容を深めることができた。今年度は、生徒と学校運営協議会委員の皆さんとの直接交流の場を設けることができ、それぞれの思いを共有する有意義な機会とすることができた。</p>	A		

学校関係者評価	<p>総評</p> <p>・全体的に落ち着いた環境の中で、子ども達は意欲的に学習している。また、小中一貫教育・コミュニティスクールのツールを使い、計画的・組織的・継続的な取組で、成果をあげている。さらに「学校」「家庭」「地域」が「目指す子ども像」を熟識し、それぞれが取り組むべき目標を明確化し、連携協働による教育活動をより一層推進してもらいたい。 ・全体として学校の取組は小中連携して様々な角度から子ども達にアプローチできており、豊かな育成に寄与できている。子どものあるべき姿(目標)を明確化し、取組を続けていくとよい。 ・教職員が小中一貫教育をもとに教育活動を工夫すること、地域の大人や保護者が児童に多く関わることにより、児童の豊かな心が育てられている。このような安定した学校環境を活かして、さらに研究を深め、児童の学力を伸ばしていけるとよい。</p>	評価	A	<p>学校関係者評価を踏まえての改善点</p> <p>・学校においてボランティアの協力をいただきながら、引き続き読書に親しむ機会を設け、意欲を高めていく。家庭での協力がいただけるよう、広報などの啓発に努める。 ・各担任と保護者とのつながりを深めるとともに、サポーター会等を通しての保護者との連携を深め、ニーズに応じた学びの機会を設定していく。 ・これまでの指導や取組について、教職員の負担感を配慮しながら、持続可能なものとなるよう工夫改善を図っていく。 ・「家庭」「学校」「地域」のつながりを深め、小中一貫、地域とともにある学校づくりの両面から、子どもの豊かな育ちをさらに確かなものにしていく。</p>
---------	---	----	---	---